青函トンネル

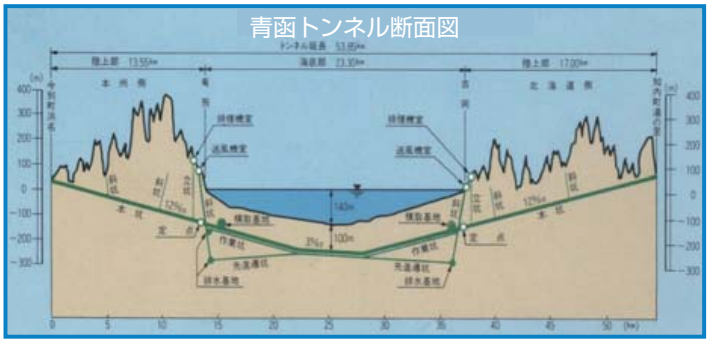
1．概　要

昭和29年青函連絡船「洞爺丸」が荒れ狂う台風で沈没し、世界海難史上第2の大惨事となったのを契機として、トンネル建設が促進されたものの実現までには多くの時間と未曾有の困難が立ちはだかりました。

とくに海底部分の掘削において、4回の大出水事故によるトンネル水没の危機をはじめとした難工事の連続でしたが、工事関係者の努力と奮闘の末、昭和63年に完成したものです。

また、新たに開発した技術は、その後の海底トンネルや山岳・都市トンネルの掘削工法の進歩に大きく貢献しました。

このように、青函トンネルは、約半世紀を要した世紀の大プロジェクトであり、今、海峡を越え北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）開業をめざして、新たな歴史が創られようとしています。



建設当時の掘削状況

2．改修事業

列車火災検知装置

トンネル湧水を排水するポンプ

■概　要

青函トンネルの設備は、列車運転に必要な設備とトンネルや列車輸送の安全対策に必要な防災設備などから構成されています。

これらの設備は経年とともに劣化現象が見られ、開業後10年を期に行った調査結果に基づき、平成11年度からトンネル機能を保全するための改修工事に着手することになりました。

これまでに、トンネル内に設置してあるポンプなどの排水施設、列車火災検知装置などの列車火災対策施設などの改修事業を実施してきました。